

高木学校 第 24 回市民講座

「語り」で問う放射線被害・被ばく・避難—福島第一原発事故 12 年

福島第一原発事故 12 年で最も顕著に現れている放射線被ばくによる健康被害は、福島県で多発している小児・青年の甲状腺がんです。2022 年 2 月には環境大臣が原発事故由来の放射線影響を明確に否定しました。しかし、政府が依拠する国際機関の報告書における多くの誤りや根拠のない主張が明らかになっています。

甲状腺がんの多発は「過剰診断」によるとする専門家たちの言説は矛盾に満ちています。この 3 月、福島県の甲状腺評価部会においては、一部の専門家がことさら「過剰診断」のリスクを強調し、甲状腺検診の「デメリット」を広めて検査を縮小しようとしています。しかし甲状腺検診は県民の健康維持に寄与していることも明らかになっています。これを認めてしまえば、被災者の知る権利も侵害されてしまいます。

日本は世界有数の地震国でありながら原発が多く立地しています。少なくとも 488 万人が UPZ（原発から 30km 圏内）に住んでいるという試算があります。実効性のある避難計画が作成され、実行される見込みはほとんどありませんがそのことは余り知られていません。福島第一原発事故では、30km 圏よりもはるかに広い範囲に住む人が被害を受け、故郷を離れ、社会的な差別と政治的な抑圧を経験しています。放射能汚染によって自然環境自体も痛めつけられています。

いまグリーン・トランスフォーメーション（GX）推進の掛け声のもと、政府は原発の再稼働に舵を切ろうとしています。その電気を得るために失うものは何でしょうか？ 汚染と被害の実態が隠されるという歴史は繰り返され、教訓は生かされそうにありません。そのことを「語り」問うていきたいと思えます。

主催：高木学校

日 時：2023 年 4 月 30 日(日) 13:00～17:00（15:30～15:40 まで休憩）

- ・参加費：無料、カンパ大歓迎 <送金先> 郵便振替 00150-8-28425
(ゆうちょ銀行 019 店 当座 口座番号 0028425) 加入者名 高木学校
- ・オンライン会議システム Zoom を使用したオンライン講座です。（定員・90 名）
 - ・資料はあらかじめ PDF でお送りしますので、事前のダウンロードをお勧めします。
 - ・講演は録画して後日公開します。
- ・お申込み：高木学校ホームページ(<http://takasas.main.jp>)

下記 URL、または、QR コードより「参加申込みフォーム」からお申込みください。

<https://forms.gle/RvxSj2u4au7uPpAv8>

折り返し、事務局より市民講座参加用の URL 等をメールでお送りします。

記入していただくメールアドレスに誤記があるとメールが届かないので、ご注意ください。

定員になり次第、受付を終了します。

【Zoom を初めて使用される方へ】

- ※マイク・スピーカー機能のついた PC、または、スマートフォン、タブレットが必要です。
- ※スマートフォン・タブレットをお使いの方は、Apple Store または Google Play から「Zoom」で検索し、「ZOOM cloud meetings」アプリをインストールしてください(無料)。
- ※パソコンをお使いの方は、参加 URL をクリックすると自動的にアプリのダウンロードを要求しますので、許可してインストールしてください(無料)。
- ※開始時間になりましたら、参加 URL を再度クリック(またはタップ)いただくか、トップメニューの「参加」ボタンから、会議 ID とパスワードを入力して入室してください。



プログラム：

< 13 時 00 分 から 17 時 00 分 >

< 13 時 00 分 から 13 時 10 分 >

【はじめに】

奥村晶子（医療被ばく問題研究グループ）

○プレゼンテーション○

< 13 時 10 分 から 15 時 30 分 >

放射線防護

【1】被ばく影響を否定する国際機関アンスケア（UNSCEAR）

瀬川嘉之（医療被ばく問題研究グループ）

林衛（富山大学 科学コミュニケーション研究室／

UNSCEAR 2020/21 報告書検証ネットワーク 世話人）

●福島県で多発している甲状腺がんを日本政府が原発事故の放射能によるのではないとするのに持ち出すのがアンスケアの報告書です。来日した説明会で「科学」を標榜するアンスケアの誤りや無根拠が明らかになりました。

【2】被ばく被害を切り捨てる「専門家」

奥村晶子（医療被ばく問題研究グループ）

●甲状腺がん多発の原因を「過剰診断」であると主張する「専門家」の言葉をたどります。矛盾に満ちた言葉から見えてくるのは、被ばく被害の切り捨てです。

「過剰診断」Q & A

崎山比早子・野中典子（医療被ばく問題研究グループ）

●3月20日の甲状腺評価部会では過剰診断についての論文が紹介されました。医療被ばくをとまなうがん検診は推進しておきながら、福島県ではことさら過剰診断のリスクを強調して、甲状腺検診のデメリットを広めています。

避難

【3】今、もういちど考える 原子力災害と「避難」

山田千絵

（くらしの中からかえるプロジェクト・医療被ばく問題研究グループ）

●放射能汚染は、影響する相手を選ばず、また環境の汚染は長期にわたります。安全に避難できる原子力災害避難計画を作ることではできません。原子力災害は「避難」によって解決できないことは明かです。

< 15 時 30 分 から 15 時 40 分 > 休憩

< 15 時 40 分 から 16 時 50 分 >

○意見交換○（17時には終了する予定です。）

高木学校事務局 〒164-0011 東京都中野区中央 2-48-4 小倉ビル 1F 原子力資料情報室内

TEL：03-6821-3315 E-mail：takasas@ja.main.jp FAX：03-5358-9791

ホームページ：http://takasas.main.jp

※お問い合わせは、E-mailにてお願いします。